



ダッシュボード

この章では、Cisco Nexus Data Broker ダッシュボードについて詳しく説明します。ダッシュボードは、複数のコンポーネントとデバイスからの情報を統合された表示にまとめます。

リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerに変更されました。ただし、GUIおよびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部のNDBのインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/Nexus Data Broker/Nexus Dashboard Data Brokerという記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

- [ダッシュボード \(1 ページ\)](#)

ダッシュボード

ダッシュボードの目的は、ネットワーク管理者とストレージ管理者が Cisco Nexus Dashboard Data Broker の健全性とパフォーマンスに関する特定の領域に集中できるようにすることです。この情報は、24 時間のスナップショットとして提供されます。

メニュー バーから **[ダッシュボード (Dashboard)]** を選択します。**[ダッシュボード (Dashboard)]** ウィンドウには、次のダッシュレットが表示されます。

- **リソース別のステータス** — Nexus Dashboard Data Broker コントローラに接続されているリソースのステータスは、色分けされた丸で表示されます。リソースは次のとおりです。
 - NDB デバイス
 - 入力ポート
 - フィルタ
 - モニタリングツール
 - Connections
- **処理済みデータ/受信済みデータ (Data Handled/Received since)** 日付 (date) : 示された日付以降に Nexus Dashboard Data Broker コントローラによって受信および送信されたデータの総量。
- **NDB ランタイム** : 現在のクラスタのランタイム。

- **NDB の最後の再起動**：クラスタが最後に再起動された日時。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。